

研究・調査報告書

報告書番号	担当
172	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
A review of military research into alcohol consumption. 軍研究におけるアルコール消費に関するレビュー	
執筆者	
Verrall NG.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J R Army Med Corps. 2011 Jun;157(2):164-9. Review.	
キーワード	
軍、アルコール消費、健康リスク	
要 旨	
目的： 軍における過剰なアルコール消費は長期では健康への影響、短期では事故や怪我の誘発し、指揮に影響を与える。本研究ではアルコール消費に関連する課題に焦点を当てる。	
方法： 軍におけるアルコール消費に焦点を当てた研究をもとに文民・軍間、配置/任地間、軍組織間、環境による属性の違いが健康アウトカムや軍の作戦実行に及ぼす影響を調査した。	
結果： 軍では文民よりも過剰にアルコール消費することが比較調査により分かった。軍群では文民群よりもアルコール依存障害の割合が高く、文民群ではアルコールと薬物の併用割合が高かった。年齢の高い軍群と文民群の比較では軍群の方がアルコール飲酒率が高い傾向にあった。また英国では軍女性群の方が文民男性群よりもアルコール乱用や依存に陥る割合が高かった。多くのこれまでの研究からアルコール飲酒によるリスクは若い、独身/未婚、男性、低学歴、白人、喫煙者という属性で高くなることが分かっている。また、後方部隊よりも前線の実戦部隊の方が肉体・精神面での影響も加わり、アルコール消費量やアルコールの乱用や依存症になるリスクが高く、PTSD やうつ病といった精神的障害や身体的障害に至りやすいことが分かった。PTSD やうつ病の群では薬物やアルコールの乱用が高い割合で見つかった。軍隊での定着率と既婚から離婚や死別などの環境の変化もアルコール依存へのリスクとの関係性が有意であり、過剰なアルコール摂取を行う習慣は将来的な離職へと繋がることもわかった。	
結論： 本研究ではアルコールの過剰摂取や乱用、依存等のリスクの高い生活習慣が軍の指揮やパフォーマンスに影響すると言われているが、それを測定することは難しい。ただ、アルコールの乱用や依存が重大な問題であるのは確かである。こうした研究のデザインや調査手法等の違いには注意を要するが、共通のプロトコルで軍と文民の比較ができるように基盤を整える必要であり、陸海空軍の組織間の違いやその中での任務による違い、国内/海外等の環境による違い等の複合的要因を十分に考慮されるべきである。	